馬耳東風

毎年，来るべき新年が明るく希望に満ちた年になってほしいと思い続けてきた．本稿は1月半ばの執筆であるが，この分では自然界が春の輝きに満ちる3月になっても，どうやらその希望は打ち砕かれそうな雲行きだ．また，憂鬱な1年になりそうだ．今の世の中，様々な分野で機能不全に陥っている．これは組織の肥大化に伴い，必然的に現れてくる病気であろうか．言わば多臓器不全の感がある．動物ではここに至ると回復不可能である．

半世紀以上前に英国の経済学者による組織論が話題になった．「パーキンソンの法則」とよばれるこの理論は現在にも当てはまるように思える．その中に「拡大は複雑を意味し，複雑は腐敗を意味する」というのがある．東日本大震災の復旧に関する動き，経済政策それに財政再建など何処を見ても正にこの法則の通りに動いていると感じる．パーキンソンの言う「組織はどうでも良い事柄に不釣り合いなほどに重点をおき」，「議員・役人は相互に仕事を作り合い」，で組織はどんどん肥大化し，かくて「委員会は5人で充分，20人にもなると機能不全となる」という所に落ち着く．肥大化した組織では責任の所在は霞の彼方に隠れ，誰もが責任を感じなくなってしまう．新年早々，出頭してきた特別手配された人物を追い返したり，同行中の容疑者の自殺を許したり，監視下の囚人の脱獄を許すなど当事者としての責任感がないのではと思わせるような，あきれる出来事が続いた．これらは事例に過ぎないが，最近ではこのような現場の判断力の低下は，肥大化したあらゆる組織で日常的に起こっていると考えられる．これが民間企業など全て自己責任で経営されている組織ではそこで起こる出来事はそのまま企業生命を左右する．責任感の欠如という点から見れば市会議員，県会議員，国会議員など議員に最も顕著に現れていると思われる．選挙で選ばれた議員による政治は，一見公正な制度であるかのように見える．しかし，人民の代表として市政，県政，国政を担当する義務と責任がある議員の大部分が，自分の再選に関わる選挙区のことしか考えていないと思われる．これでは選挙のための政治活動であり，本末転倒である．天文学的数字になった国，地方の債務をどうするのか，自分達の責任ではないとばかりに行動する．これではいずれ破綻することは明白である．ギリシャの経済破綻など比べようもなく大きな影響が出るであろう．官民の緊張感の差異が背景にありそうだ．

新年早々，こんなぼやきで執筆事始めになるとは健康上良いとは思えない．しかし，最近のNHKの世論調査（あまり好きではないが）に因ると，議員の定数削減，公務員の総人件費削減などを約3/4の国民が求めている．筆者のみならず，この機能不全に陥った政治を見ていると，誰しも経費対効果からそう思われてくるのだろう．早く夢が語れる世の中になってほしいものである．

（青）